

ほこしゃ

# 保護者のみなさまへ

おうちのかたに  
みせてください。

## ある保育士さんのエピソードから

下の文章はある保育士さんが2歳児クラスでの、子どもへのかかわりを振り返って書いたエピソードです（鯨岡峻『子どもは育てられて育つ』より引用）。

登所し、祖父と離れるときには手を振って別れたMちゃん。保育士と手をつないで保育室に入ったが、手を離すと「抱っこ」と手を伸ばしてきた。／しばらく抱っこをすると安心したのか、RくんやHちゃんがままごとをしている輪の中に自然に入っていた。私はその様子を見ていたが、少しして、Rくんと玩具の取り合いになった。その玩具はRくんが使っていたものだったが、Mちゃんは「Mちゃんの！」と言って泣き出した。／私はまたかと思いながらMちゃんを抱っこし、「Mちゃん、これはRくんが使っていたんだよ。Mちゃんのじゃないよ。違うのにしようか」と話したが、Mちゃんはその後しばらく泣き続けた。……この後しばらく抱っこをし続け、おやつの時間になって、やっと椅子に座つておやつを食べた。／おやつが終わり、私は散歩に行く準備をし、子どもたちは他の保育士と一緒に順番にトイレに行っていたが、Rくんたちと遊んでいたMちゃんがまた急に泣き出した。なぜ泣いたのか分からず、私はすぐにMちゃんのそばに行き、抱きかかえ「どうしたの？」と聞いたが「うわ～ん」と泣いているだけだった。「もう泣かないの！」と言っても泣き止む様子はなかった。／朝から泣いている状態が繰り返し続いたので、このとき私の中で、“何で泣くの。もういいかげんに泣かないでよ。こんな不安定なMちゃんを連れて散歩にはいけない”という思いが強くなってしまった。／「Mちゃん、今日はひよこ組さんで遊ぼう。散歩やめよう」と声をかけると、Mちゃんは小さくうなづいた。私はMちゃんをひよこ組（0歳児）の保育士に頼み、クラスの子どもたちと散歩に出かけた。／しかし散歩に行っている間も、“やっぱり連れてきてあげればよかったかな？”とMちゃんのことが気になって仕方がなかった。保育所に帰ってすぐにひよこ組の保育室に行くと、Mちゃんが泣かずにひよこ組の保育士と落ち着いて遊んでいた。

Mちゃんはもともとよく泣く子だったようですが、妹が生まれたばかりで寂しい気持ちもあって、最近はちょっとしたことで泣いてしまい、なかなか泣き止まないということが続けていたようです。これを書かれた保育士さんは寂しい気持ちがあることはわかっていました。ただずっと泣き続けるMちゃんに“泣き止んでほしい”という思いを持っていました。ずっと泣いてばかりいる子を前にしたときにそう思うのは当然だと思います。ただ、保育士さんはたぶんMちゃんの気持ちを受け止めてあげることができなかったと感じて気がかりだったのだろうと思います。

“こうしてほしい”という大人の思いもありますので、子どもの心を「受けとめる」ということはむずかしいなあと思います。

